



防蛾 LED の現地試験(アスパラガス圃場)

#### 成果情報

- ・ 水稲「あきさかり」
- ・ 大豆「あきまる」

#### 研究紹介

- ・ 白ねぎの高位安定生産指針
- ・ 防蛾照明技術の取り組み

#### コラム

- ・ 果樹の開発技術

#### 品種紹介

- ・ 『目黒実採り豌豆』

### 成果情報 水稲「あきさかり」を奨励品種に採用

近年、外食産業では米の消費が伸び続けており、均質で低価格の米を安定的に供給することが求められています。

福井県が育成した「あきさかり」は「コシヒカリ」よりもやや遅い熟期の早生品種ですが、草丈が短く倒伏の心配がないので、収量を高めることができます(図1)。増収栽培を行っても玄米品質が良好なため、生産者の収益を維持しつつ安価な米を提供できます(図2)。奨励品種から棄却した「どんとこい」と「キヌヒカリ」、および一部の「コシヒカリ」に替えて標高150~500mの農業法人及び大型農家を中心に普及を図る予定です。



図2 玄米(透過光で撮影)



図1 草姿

(栽培技術研究部)

## 成果情報 大豆「あきまる」を奨励品種に採用

広島県における大豆栽培は、播種適期が梅雨にあたるため、湿害による出芽不良や初期生育不良により、収量・品質が安定しにくいという問題点があります。そこで、梅雨明け後に播種しても収量が安定する品種を検討し、晩生品種「あきまる」を新たに奨励品種に採用し、「ハタユタカ」と「アキシロメ」を奨励品種から除外しました。

「あきまる」は、多収で、外観品質が優れ、コンバイン収穫適性が高い品種です（図1, 2）。成熟期が「サチユタカ」よりも11~12日遅いため栽培地域が限られること、やや倒伏しやすいため播種時期に応じて播種量を増減する必要があることに注意が必要です。「秋にまるやかで美味しい味噌の原料になる大豆が収穫できるように」との名前の由来の通り、味噌加工への利用が期待されています。



あきまる サチユタカ

図1 子実の外観

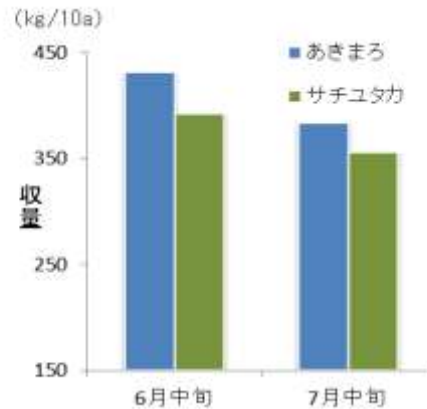


図2 6, 7月播種の収量

(栽培技術研究部)

## 研究紹介 現地実態調査に基づく白ねぎの高位安定生産指針の策定に向けて

現在、白ネギの周年栽培のため、夏どり作型の導入が試みられていますが、収量は、目標の10a当たり2.3tに対して平均1.5tと低く、安定多収技術が求められています。

現地調査結果から、平成24, 25年いずれも収量の低いA圃場の土壌の物理化学性は、収量が安定しているB圃場に比べ、固相率が高く、有効水分、pH、陽イオン交換容量(CEC)は低く、交換性塩基、腐植が少ない傾向でした(表1)。

今年度は、A圃場で、pH矯正、有機物(牛ふん堆肥)の大量投入による土壌の物理化学性の改善効果を明らかにする現地実証試験を実施します。また、当センターにおいて、昨年度明らかにした白ネギの窒素吸収量6.5kg/10aを基に、3段階の施肥水準で栽培することで収量と窒素吸収量の関係を解明します。これらの結果より、適正施肥量を決定し、生産現場へ情報を提供する予定です。

表1 現地圃場における白ネギ栽培跡地の土壌物理化学性

圃場	収量		pH	可給態 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	交換性塩基			CEC	腐植	固相率	有効水分
	H24	H25			CaO	K <sub>2</sub> O	MgO				
A	1.4	1.6	5.3	16	94	15	14	12	3.2	46.4	9.8
B	1.9	2.4	6.2	135	306	77	61	17	5.3	42.5	12.7

Ⓐ:低収 B:安定

(採土:H25.10)



(生産環境研究部)

## 研究紹介 防蟻照明技術の改良と適用品目拡大への取り組み

農業技術センターではこれまでに「LEDの点滅光を利用した防蟻照明技術」を開発しています。この技術は、オオタバコガやハスモンヨトウ成虫に対する防蟻効果があり、しかもキクの開花を遅らせない照明技術です。

この技術を製品化するためには、「ヒトにやさしい照明技術」という視点(図1)も必要であり、ヒトへの影響が生じないように、点滅スピードを遅くする改良を加えました。

この改良した技術を、より多くの品目で使用できるよう、ミニトマトとアスパラガスでの現地実験(図2)を行っています。今後、実験で得られた成果や課題は共同研究を行っている企業へフィードバックし、早期の製品化を目指します。

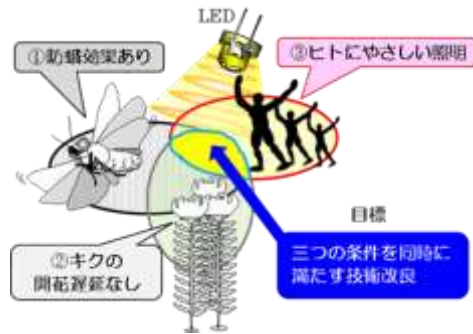


図1 改良中の防蟻照明技術(イメージ図)

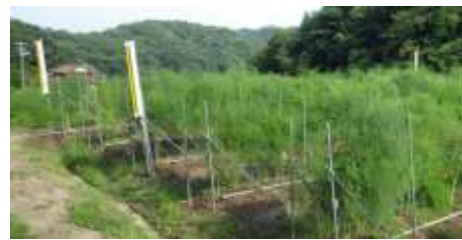


図2 現地実験の様子

(露地アスパラガス圃場, 昼間)

(生産環境研究部・栽培技術研究部)

### コラム

果樹の開発技術を見にきてください

果樹研究部

部長 平尾 晃

農業技術センターでは、新しい技術の研究開発と農業現場等で困っていることに対する技術支援を行っています。農業技術センターで開発した技術は、現場で使っていたら初めて日の目を見る事ができます。そこで、新しい技術を紹介するために、皆様にお集まりいただき、新技術セミナーや研究成果発表会を開いて、紹介させてもらっています。

このほかにも、開発した技術を紹介するために、随時、皆様の視察もお受けしています。現在、果樹研究部では、ブドウの根域制限栽培技術、ブドウ「ピオーネ」や「シャインマスカット」の増収技術、モモのジョイント栽培技術、温州ミカンの主幹形栽培技術の他に、主に県内の生産者の皆様向けにレモンの省力栽培技術等を見たいいただくことができます。

果樹研究部には、平成二四年度は六三〇人、平成二五年度は四五〇人と、毎年多くの方に視察にお越しいただいています。一方、県内からの視察は三割程度と、少し淋しい思いもしています。限られた人と研究予算の中で開発した技術を展示しておくことは、正直、しんどいところがあります。しかし、皆様方に果樹研究部にお

越しいただくことで研究員との交流が始まり、新しい技術が広まって行くきっかけになればと期待しています。果樹研究部は少し不慣れな場所ではありますが、敷居の高いく所ではないので、ぜひ一度、お越しください。



モモジョイント栽培視察



ブドウ増収技術視察



ブドウ根域制限視察



ジーンバンクで保存している特徴のある品種 (50)

## えんどう 目黒実採り豌豆

越冬性に優れ着果数多く多収の蔓性黒目種

エンドウの品種の内、未熟果を利用するいわゆるグリーンピースは一般に冬季から春季にかけての寒さや降霜の被害を受けて枝先の成長が停止する芯止まりになり易いのですが、この品種は芯止まりの発生が比較的少なく、寒さの被害が少ない結果を示しました。北海道から取り寄せた品種なので、寒さに強いのかもかもしれません。また、分枝数が多く、着莢率の高いのも特徴的です。平均莢長は7.7 cm、一莢当りの平均子実数は3.8粒と大きい莢ではありませんが、着莢数が多く欠種子率の低いことが、多収を生み出していると思われます。

広島県中部地帯での播種適期は10月下旬～11月上旬。畦幅1mで株間40cm、1カ所3粒播きを標準とします。出芽後は丈夫な支柱を立ててネットを張り、誘引に備えます。開花が始まったら整枝を始めます。方法は先ず主枝と二次分枝以下を全て除去し、一次分枝の中で芯止まりしたものを除いて一カ所7～8本を残します。これらが伸びるにつれてネットを抱く様にして誘引します。莢色がやや白けてきたら収穫です。



一般財団法人 森林整備・農業振興財団 農業ジーンバンク技術嘱託員 船越建明

農業技術センター  
ホームページをご覧ください。

農業技術センターホームページでは、センターニュースをはじめ、研究成果情報など最新の情報を提供しています。また、お問い合わせの多い各種案内、研究紹介など、お役にたつホームページとしています。インターネットの接続環境があれば、いつでもパソコンでご覧いただけます。ご利用ください。

広島県 農業技術センター

検索

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>



(問い合わせ先)

〒739-0151 東広島市八本松町原 6869  
総務部 ☎082-429-0521  
技術支援部 ☎082-429-0522  
栽培技術研究部 ☎082-429-3066  
生産環境研究部 ☎082-429-2590

〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835  
果樹研究部 ☎0846-45-5471

農業技術センターNews No.116  
編集発行

広島県立総合技術研究所  
Hiroshima Prefecture Technology Research Institute  
農業技術センター  
平成26年10月1日

お問合せ・ご意見は、技術支援部までお寄せください。  
メールでもお待ちしております。

E-mail [ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp)